SONY
make.believe

パブリックディスプレイ　お客様事例

社団法人東京都職員互助会 三楽病院様

GXD-L52H1　FWD-S47H1　医療

医療画像参照用ディスプレイにGXD-L52H1・FWD-S47H1を採用。DICOMガンマ設定や広視野角での情報表示が医療現場をサポート

お客様のニーズ・課題

院内のフィルムレス化・ペーパーレス化を実現。どこからでもデータを呼び出し、複数人で参照できる環境を整えるため、大画面の参照用ディスプレイを導入したい。

導入効果

52インチと47インチのフルHD業務用液晶ディスプレイを導入。DICOMガンマ設定機能や広視野角、高輝度による高精細映像は、ベテラン医師をはじめ各診療科でも高い評価を得た。



社団法人東京都職員互助会
三楽病院様

三楽病院様は、その経営母体である東京都教職員互助会の事業の一環として1933年に設立されました。東京都教職員互助会は、東京都の教育向上に資するために、教育に関する調査・研究などの実施や教職員の福利厚生に寄与することを目的とした組織であり、三楽病院様の設立もその目的に準じています。設立75周年を迎えた現在では、東京都の教職員およびその家族のみならず、退職された会員や一般の方々の診療にも精力的に取り組み、二次救急医療機関や労災指定病院としての使命を果たすとともに、地域医療にも貢献すべく充分な体制を整えています。

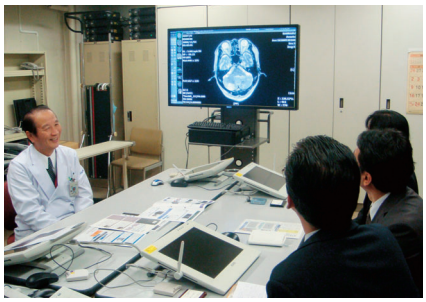



社団法人東京都職員互助会 三楽病院
院長 瀬戸山隆平先生（写真左）と、整形外科 部長・日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 常務理事 佐野茂夫先生にお話を伺いました。

導入背景

フィルムレス化に伴い、大画面参照用ディスプレイを要望。

三楽病院における院内業務のIT化推進は、電子カルテの導入検討に取り組んだ2000年から始まりました。2001年に院内に光ファイバー網を敷設し、現在では高速データベースを基盤とした電子カルテとPACSを中心として、フィルムレス・ペーパーレスでの運用が行われています。フィルムレス化を実現する以前は、医療画像フィルムの保管スペース確保やフィルム代、出力代などのコストが大きな負担となっていました。レントゲンやCT、MRIなどの画像フィルムは、法律により保管期間が定められています。また、医療の進歩とともにデータの情報量が多くなり、患者さん一人当りのフィルム枚数が増加していました。さらに、2008年4月から医科診療報酬点数が改正され、フィルムレスの環境が整いました。そこでPACSによる院内のフィルムレス化を行い、院内のどこからでも医療画像データを呼び出し、参照できる環境を整えたのです。PACSを導入した直後は、参照用モニターにPC用ディスプレイを使用していましたが、画面サイズが小さく複数人でのディスカッションには向かないこと、表示精度的にも不満があったことなどから、大画面の参照用ディスプレイを導入することになりました。（瀬戸山院長）



複数人でディスカッションを行うため、大画面の参照用ディスプレイを導入決定した。

選定理由

高輝度、広視野角、DICOMガンマ設定はベテラン医師も高く評価。

数社の製品を比較検討した結果、ソニーのフルHD業務用液晶ディスプレイGXD-L52H1とFWD-S47H1の導入を決定しました。画面が明るく178度の広視野角があり、大人数で参照する際にも視認性が高いこと、既存システムとスムーズに融合できることなどが選定の理由です。特にFWD-S47H1では、DICOMガンマ設定機能が搭載され、医療用グレースケール標準関数に基づいたカンマ設定が行える点を評価しました。この機能を持たないディスプレイには、外付けのコントローラボードを利用する方法もありますが、高コストであり、またセットアップに30分以上かかります。その点、FWD-S47H1ならばすぐさまガンマ設定モードに切り替えられますし、コスト面でも納得できました。現場のベテラン医師数名にも確認してもらったところ「参照用ディスプレイとして要求以上の高精細映像を表示し、フィルムとほぼ同等である」と評価をもらい、導入を決めました。（瀬戸山院長）



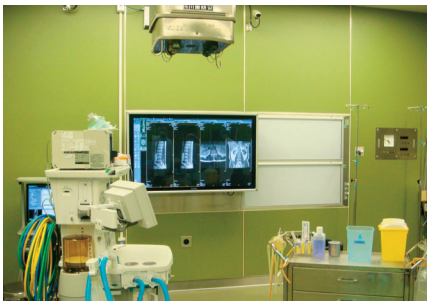
FWD-S47H1に搭載されたDICOMガンマ設定機能により、画像データがクリアに読み取れる。

導入効果

高精細画像は手術室やカンファレンスルームなど医療現場で活躍。

■手術室やカンファレンスルームでの医療画像参照に活躍
52インチのGXD-L52H1を手術室4部屋に、47インチのFWD-S47H1をカンファレンスルームや会議室、ナースステーションなどに7台設置しました。
手術室のGXD-L52H1は壁付けにし、連携病院から持ち込まれたフィルムを参照するシャーカステンと隣接する形で設置しています。52インチと画面サイズが大きく、高精細な映像表示を行うため、手術中でも患部などの認識共有がスムーズに行えます。GXD-L52H1は埃に強く、頑丈な外装設計になっていることに加え、さらに表面に強化ガラス製の保護パネルが装備されているため、手術中に薬品や体液が飛散した場合でも簡単に拭き取れますし、反射を抑えた見やすい映像として表示できています。
FWD-S47H1の一部は、キャスター付のキャビネットに載せ、必要に応じてトレーニングルームやディスカッションが行われる会議室などに移動できるようにしました。状況によって手術室にも持ち込み、GXD-L52H1と並べて、一方にはサムネイル画像を並べ、もう一方には1枚のデータを拡大表示するというように、マルチディスプレイとして使用することもあります。連携病院から持ち込まれるフィルムがある限り、手術室からシャーカステンを外すわけにはいきませんが、参照画像がデータのみの場合などにFWD-S47H1も活用できるのは、運用面からも資産活用の面からも利点です。（瀬戸山院長）

■整形外科など医療現場の高い要求にも応える
整形外科では、ほかの診療科よりもレントゲンやCT、MRIなどの画像品質に高い精度を求めます。今回導入されたFWD-S47H1は、DICOMガンマ設定機能を搭載していることもあり、医療画像参照用ディスプレイとして十分に活躍できる性能を備えていると評価しています。（佐野整形外科部長）



手術室に壁付け設置された52インチのGXD-L52H1



大画面および高精細な映像表示により、認識の共有が容易に。

今後の展望

運用開始直後ながら、院内からは増設要望の声もあり。

フルHD業務用液晶ディスプレイGXD-L52H1とFWD-S47H1は、2008年9月末から10月中旬にかけて順次導入しました。医療画像参照用ディスプレイとしては、輝度や表示精度、サイズもふくめて満足しています。本格運用はまだまだこれからですが、すでにあちこちの診療科から欲しいという要望があがっています。ただし、参照用ディスプレイとして、ガンマ設定機能まで必要ない場所もありますので、各診療科や現場が必要としている性能に応じて、導入機種を選択していきたいと考えています。ソニーさんには、今後も引き続きサポートをお願いしたいと思います。（瀬戸山院長）



178度の広視野角により、斜めの角度からでもはっきりと見える。

パブリックディスプレイの商品情報をご覧いただけます。
sony.jp/public-display/

ソニーマーケティング株式会社／〒108-0074　東京都港区高輪4-10-18
商品に関するお問い合わせは
業務用商品相談窓口
フリーダイヤル　0120-788-333
●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは　0466-31-2588
●FAX　0120-333-389
●受付時間　9:00～18:00（土・日・祝日、および年末年始は除く）

2009年10月現在